サッポロ　企業広告　長尺ドラマ型ＣＭ

たった一滴の乾杯

（４、５分）

脚本　大岡俊彦

登場人物

カナコ（２８）　会社員。
父（５５）　大の酒好きだった。
母（５５）

○東京の会社内、オフィス

ケータイで電話してるカナコ（２８）。

カナコ「倒れたって？　お父さんが！？　病院どこ？　…手術するの！？」

○一両の電車が走るような田園風景

○田舎、病室

カナコ、土産のまんじゅうを持って病室へ入ってくる。

ベッドには、チューブに繋がれた父（５５）が弱々しく笑う。

父　「…やあ」

カナコ「…思ったより、元気じゃない」

母（５５）が土産を受け取る。

父　「もう酒はやめるよ。…死にかけたよ」

カナコＮＡ『大酒飲みだった父が、体を壊した。この日から、すっかり甘党になった』

まんじゅうをほおばる父。

父　「うまいなあ。うまいなあ」

○（時間あいて）正月、実家

団欒する父、母、カナコ。

父は色んなまんじゅうをほおばりながら。

父　「お前そろそろ結婚の話とかないのか」

カナコ「それ以前の問題です。相手探しが先です」

父　「こないだの彼氏は？」

カナコ「別れたって言ったでしょ」

父　「お前の結婚式に出るのが、父さんの昔からの夢なんだよ。叶えさせておくれよ。お土産のまんじゅうで糖尿になっちまうよ」

カナコ「(母に)そんなに甘いものばっか食べてるの？」

母　「だいぶ太ったでしょ」

○一両電車の田園風景（時間経過）

カナコＮＡ『十年、それから私は父をまんじゅう漬けにした親不孝者で、それでも結婚できる日がやってきた』

○結婚式場、打ち合わせ室

実家の母とケータイで。

カナコ「どういうこと？」

母　「ぜんぜん分からないのよ。近所の人が何人も見てるの。お父さんがこっそり病院に通ってるって。甘いものも突然辞めちゃうし、何かの病気を隠してるのかしら」

カナコ「…落ち着いて、考えすぎよ。式には二人とも来れるんだよね？」

○式の前日、夜、式場

カナコ「お父さん、まんじゅう食べないの？」

テーブルの上のまんじゅうを無視する父。

父　「実は、話がある」

かばんから、検査結果を出す。

どきりとするカナコ、母。

父　「一滴だけ、飲んでいいって、医者に許可をとってきた」

カナコ「は？」

母　「何を？」

父　「酒だよ。すっごい濃い奴にしたいけど、医者のヤロウ、ビールにして下さいだとよ。だから俺はビールを飲むぞ。たった一滴のビールを飲むんだ」

カナコ「何を言ってんのよお父さん」

父　「俺の夢は、お前の結婚式で酒を飲むことだったんだ！　数値は大丈夫だろ！　本当は、まんじゅうなんて大ッ嫌いだったんだ！」

テーブルの上のまんじゅうをひっくり

返す。
カナコ、母「…」

○式当日

カナコNA『こうして、父専用の小さな盃が用意された。ていうか、父が持参した』
司会　「では皆さん、グラスを満たしましょう！」
カナコNA『ざわざわとした騒音の中。そのちいさな一言を、私は聞き逃さなかった』
父　「かんぱい」
父は、ほんとうに嬉しそうに。
その姿を見て涙が出てくるカナコ。
カナコ「…乾杯」

コピー「人生はビールだ。
苦くて、うまい。」

○CI　乾杯をもっとおいしく。サッポロ

サッポロ　企業広告　長尺ドラマ型ＣＭ

※「リレードラマ」と題して、「たった一滴の乾杯」のカナコを主役にすることも可能。

再会

（２、３分）

脚本　大岡俊彦

登場人物

女（２８）　会社員。
元彼（３０）　女の元彼。

○会社内、オフィス、廊下

立ち話であいさつしている面々。
相手会社チームの中に元彼（２８）。
女（２８）、気まずい。
女ＮＡ『元彼と、再会した。プライベートではなく、取引先のチームとしてだ』

○同、打ち合わせ室、夜

チームの打ち合わせは、夜まで続く。
女　「それは理解しますけど、本来のマーケティングとは違いますよ」
元彼　「より広い層に受けるほうがいいでしょう」
女ＮＡ『彼とは何度も何度も話した。仕事の話を延々と』

○夜、居酒屋

そのまま全員で飲みに繰り出したあと。
すっかり終了モード。
おじさん１「じゃ明日もあるし、帰るわ」
おじさん２「じゃ私もこのタイミングで。会計はもう済ましたんで」
みんな帰ってしまい、女と元彼が、二人だけ取り残された形に。
二人　「…」
枝豆の残りでも食べながら。
女　「その後、元気でやってる？」
元彼　「…まあまあだね」
女　「…私、あなたの彼女となら親友になれそうな気がする。愚痴を聞けるもの」
元彼　「俺だってお前の彼氏とマブダチになれると思うよ。じゃ、次は４人で飲むか」
女　「…」
元彼　「？」
女　「実は、まだ一人だけどね」
元彼　「…実は、俺もだ」
女　「…」

元彼　「…」
女　「冗談として言ってみるけど、もう一回つきあう？」
元彼　「冗談として言ってみるけど、ないね」
女　「そうだね。…決めたことだもんね」
元彼　「うん。…ないね」
枝豆が、なくなった。
元彼　「もう一杯だけ、ビール飲んで帰るか」
女　「あ。…うん」
元彼　「こんど飲むときは４人だからな。（店員に）スイマセーン！」
女ＮＡ『その時の苦いビールの味を、私はいつまでも覚えていた』
元彼　「じゃ最後に乾杯しよう！」
女ＮＡ『胸を張って彼に会うまで、それから十年かかった』

コピー「人生はビールだ。
苦くて、うまい。」

○ＣＩ　乾杯をもっとおいしく。サッポロ

サッポロ　企業広告　長尺ドラマ型ＣＭ

※「リレードラマ」と題して、「再会」の元彼を主役にすることも可能。

師匠

（２、３分）

脚本　大岡俊彦

登場人物

男（２８）　会社員。

上司（６７）　男の引退した元上司。

○会社内、オフィス

ケータイで話す男。

男　「…分かりました。お世話になったんですよ。当然いきますよ。…ぶっちゃけてください。…もう、長くないんですか？」

○回想、新橋みたいな飲み屋街

何軒も上司のはしごに連れてかれる男。

男ＮＡ『新入社員時代、ほんとに朝まで何度も飲まされた。吐いても吐いても飲まされた。クソ上司と当時は思ってた。でもそのときに、大事なことを伝えようとしてたんだと、何年もしてから分かった』

○病室

ベッドから起き上がった上司。

上司　「おう。懐かしいじゃないか。来てくれるとは思わなかったよ」

男　「…ども」

すっかり毒気の抜けた上司。

会社の仲間たちの、合同見舞いである。

男ＮＡ『みんな気を使ってか、野球の話とか、うまいものの話とか、天気の話とか、来年の話をしていた』

おじさん１「じゃ、長居しても体に触りますから」

おじさん２「また来ますよ」

上司　「今日は、ありがとう」

男は最後に部屋を出る。

が、一人だけ戻ってくる。

上司　「？」

男　「アンタは、そんな風に穏やかに笑う人じゃなかった」

カバンから缶ビール二本を出す。

家族　「お医者さんからお酒は禁止されてて…」

上司　「持ち込みも禁止だよ」

男　「相談したいことが、あるんです」
　と、会社から仕事の書類を出す。（設計図のような大きなものがよい）
上司「（目つきが変わる）…どこが問題だ？」
　その変化に、家族がびっくりする。
男　「師匠に聞きたいことが、まだ山ほどあるんです。一杯だけ付き合って下さい」
上司　「…今更、師匠呼ばわりか」
　上司、立ち上がり、家族に、
上司　「看護婦に見つからないところへ行ってくる。うまくごまかしてくれ」
家族　「（男に）父は、会社ではいつもこんな？」
男　「僕の師匠は、こっちの人です」
上司　「ふん（ほほえんで）。行こう。朝までは付き合えんぞ」
男　「そこはかいつまんで下さいよ」
上司　「うるせえ（笑）」

コピー「人生はビールだ。
　苦くて、うまい。」

○ＣＩ　乾杯をもっとおいしく。サッポロ

サッポロ　企業広告　長尺ドラマ型ＣＭ

延長戦

（２、３分）

＃１　男の場合　　脚本　大岡俊彦

登場人物

男（２８）　芽の出ないボクサー。
トレーナー（４８）　彼のトレーナー。
キャバ嬢（２０）

○早朝、男の自室

４時半。目覚める男（２８）。
着替えて、ランニングへ。
タイトル「延長戦　＃１」

○早朝、河原

トレーナー（４８）が自転車で待っている。走り出す二人。
男ＮＡ『若いうちに芽が出ないやつは引退だ、最初にそう言われて５年がたった。芽の出る種なんて、そもそも俺にあったのか』

○ジム内

片隅でサンドバッグを打ち続ける男。
ジムのスター選手が広い場所で練習しているのと対照的。
トレーナーが声をかける。
トレーナー「次の試合決まったぞ」
男　「今度こそ、楽な相手にしてください」
トレーナー「楽な試合なんてねえよ。全員必死だから試合なんだろうが」
男　「（無言でサンドバッグを叩く）」
トレーナー「次負けたら、お前どうする？」
男の顔を覗き込む。
男、無言でサンドバッグを叩く。

○試合

ダウンする男。
トレーナー「バカヤロ！　まだスタミナあるだろ！　走りこみは散々やっただろ！」
立ち上がる男。
ゴング。コーナーに帰ってくる。
男　「どうすかね判定」
トレーナー「駄目だろ！」
男　「…延長戦、ないですかね」
トレーナー「あるわけねえだろ！」

男　「…野球も、サッカーも、カラオケにもあるのに」

○キャバクラ（残念会）

スタッフたちは騒いでいる。
顔の腫れた男は、ウーロン茶を静かに飲んでいる。

キャバ嬢「お酒は？」

男　「（顔をさし、口癖のように）明日、腫れちゃうから」

キャバ嬢「明日、何かあるの？」

男　「あるよ。…ある」

○早朝、河原

待っているトレーナー。
顔を腫らした男が来る。

男　「引退、しませんよ」

トレーナー「会長と賭けてた。俺の勝ちだ」
走りだす二人。

男　「勝ち組ってのは、勝つまでやった奴のことを言うんだ」

コピー「勝利の美酒は、
最後の最後まで取っておけ。」

○ＣＩ　乾杯をもっとおいしく。サッポロ

サッポロ　企業広告　長尺ドラマ

延長戦

（２、３分）

＃２　女の場合　　脚本　大岡俊彦

登場人物

女（２８）　会社員。

彼氏（２８）　その彼氏。

上司（５０）

○会社、オフィス

女（２８）「まじですか！　私がやっていいんですね！」

上司（５０）「時間なくて申し訳ないが、チャンスだと思って」

女　「企画書のフォーマットでいいですか」

上司　「月曜にあると助かる」

女ＮＡ『くすぶっていた私にも、ようやく星のめぐりが回ってきた。彼氏との晩御飯の約束を思い出したのは、日が沈んでからだ』

窓の外はすっかり夕方に。

タイトル「延長戦　＃２」

○夜、オフィス内と週末の町をカットバック

ケータイで彼氏に連絡を取る。

女　「ということで、遅メシでなんとかならないでしょうか」

週末の街を歩く彼氏。

彼氏　「えー？　もう店予約しちゃったよ」

女　「すいませんそこはキャンセルで」

彼氏　「どうやって時間つぶすかな」

女　「映画でも見てて」

女、仕事に戻る。

しかし、企画書はぐちゃぐちゃで、煮詰まっている。

×　×　×

ケータイに出る彼女。

時間は夜１１時を回っている。

女　「すいません。全然まとまりません」

彼氏は自室で料理をしている。

彼氏　「だろうと思ってさ。飯、俺がつくることにしたわ。今夜は泊りにおいでよ」

女　「ありがとう。もうちょっとだけ、延長戦の時間をください。ずっと前からやりたかった仕事なの」

パソコンのモニタに戻る彼女。

しかし、やはり進まない。

○深夜のオフィス

もう誰も残っていない。女の席だけ電気がついている。

メールする彼女。

メール「全然、終わりません。もう寝てください。ほんとにごめんなさい」

何もかも終わっていない。

彼氏から電話。

女　「もう寝て。ごめんなさい」

彼氏　「きみの分のご飯は残しておいたよ」

女　「…明日何時に起きる？」

彼氏　「いつもと同じぐらい」

女　「じゃ、その時間にベッドにもぐりこむから」

彼氏　「そんなにかかるのかよ」

女　「…」

彼氏　「…？」

女　「…あと、ビールは、残ってるよね？」

彼氏　「朝から飲むのかよ」

女　「あなたとビールを飲むのが、今日の終わりなの」

仕事に戻る彼女。

コピー「勝利の美酒は、最後の最後まで取っておけ。」

○ＣＩ　乾杯をもっとおいしく。サッポロ

サッポロ　企業広告　長尺ドラマ型ＣＭ

ライバル

（２、３分）

脚本　大岡俊彦

登場人物

男１（４０）　腹の出た、元甲子園球児。
男２（４０）　かつてのライバル。

○小さな野球用具店

タイトル「ライバル」

雑貨屋のスペースに、無理矢理野球用具を置いてるような、庶民的な商店。少年野球チームが群がって、店長の男１（４０）に今日の試合を報告している。

少年１「コイツが練習通りにやらなかったんだよ！」

少年２「練習通りにやらなかったのはコイツだよ！」

男１　「まあまあまあ。あれ？　またメンバー減ってねえか？」

少年１「…みんなゲームばっかしてんだよ」

男１　「野球はもう流行んないのかね。…ゲームがライバルになるとは」

そこへ、酒屋のおっさんが。

酒屋　「おう。試合の場所、決まったぞ。向こうから遠征してくれるってさ。はい、オーダー表」

メンバー表を見た男１は驚く。

酒屋　「どうした？」

男１　「甲子園のときのライバルが、いる」

酒屋　「ライバル？」

男１　「予選の打率がたまたま同じでさ、ライバル扱いされたんだ」

×　×　×

回想、甲子園。

サードを守る男１（１７）。ランナーの男２（１７）。牽制球で戻る。

アウトかセーフでもめる。

×　×　×

男１　「あの三塁ベース以来だな」

○河原の草野球グランド

試合前の整列、礼。

相手チームに男２（４０）。

男１と目を合わせるが、言葉は交わさ

ない。
×　×　×
試合の展開中、男１の守る三塁に、ランナーとして男２が。
男１　「覚えてるか」
男２　「…メンバー表見て、びっくりしたよ」
男１　「オッサンになったなあ」
男２　「…（腹をさすりながら）お互いな」
男１　「甲子園のメンバーと、まだ会う？」
男２　「だいぶ会ってない」
男１　「人間には、二種類いるんだよ。すっぱり足を洗う奴と、俺みたいにまだ野球に関わってる奴」
男２　「…」
男１　「俺さ、野球用具店やってんだ。親父の店改造してさ。子供たちにも教えてる。お前は？」
男２　「ゲーム会社」
男１　「（嫌な顔に）んだよ、ライバルかよ」
男２　「ライバル、かね」
男１　「？」
男２　「つくってるのは、野球ゲームなんだ」
男１　「…」
男２　「ふふふ」
男１　「ははは」
そこへ牽制球が飛んでくる。
セーフかアウトかでまたもめる。
今度は笑いながら。

コピー「大人とは、
ライバルであり、同志であること。」

○ＣＩ　乾杯をもっとおいしく。サッポロ